



—リレー・エッセイ—

# 男女共同参画推進委員会

平成25年度男女共同参画に関する作文 入選作品

第35回

高校生・一般の部 入賞

人生の終章に近づいて思うこと

内田 洋子 (安中地区)

40歳を過ぎるとその人の人生が顔に現れてくると言われます。

先日参加したある旅行で、私が感じたことは険しい表情の方が多かったことです。生きるために多勢の方が人間関係や経済的に苦労されているのだと思えました。そして、私も眉毛や目尻を吊り上げた険しい表情になっていくのかしら?と思ったとき、鏡を見るのが怖くなりました。

女ばかりの長女として成長した私は、幼い時から「跡取り」と言われながら育ちました。犬や猫でさえ「男」がいいと口癖だった父は女々しいことを嫌い、買いつけてくれるものは茶色い革製のランドセルやカバンでした。学校では男子に混ざって引けをとらない生活を望まれました。男女共同参画なんて言葉も無い頃から男女対等の生活を強いられました。高校生となった私は迷いましたが、女であることの前に「人間である」ことをまず考えて過ごすようになりました。

就職して何年か経って、チラホラと縁談が舞い込むようになっていました。父は事業を起こしては失敗し、余りにも貧しすぎて家を飛び出す勇氣すら失っていました。それでも自分がしっかりしていれば親の財産の有無は二の次だと思ってきました。しかし「親にも頭があがらない、嫁さんにも頭が上がらない結婚なんてごめんだよ」と

縁談の話になると彼らは去って行きました。

人生の終章近くになって求められた私の意見は、月並なものになりますが、「男女共同参画」について礎にあるものは「家庭」であり「結婚」ではないかと思うのです。

私たちが働いてきた社会は、年功序列型賃金から職能給に変化してきました。女性の職場進出は男女対等な職場をつくってきました。私たちの生活の中に欲しいものが溢れ、共働きすれば手が届く; ようになりました。教育の高度化、医療福祉の充実が高賃金と貯えを必要といたします。福祉が充実すれば; 年金が充実すれば; 貯えが無くとも等しく老後を過ごせるか? と言えば、そうともいきません。医療費が一部負担になる頃には介護負担が嵩上げされます。消費税増税は具体化しています。高福祉イコール高負担が取り沙汰される中、「男女共同参画」の浸透は、職場においては高生活費を得るために、社会においては女性議員の増加や今まで男性分野だった仕事に活躍をされる方も多い。が、また格差社会を叫ばれて久しい。しかし真の国力を上げるには子どもの数が増えなければなりません。私たちにとってまだまだお金は大切だが、心の涵養を持って生活できるような意識改革ができれば、お金も新しい潤いを生むことだろう。その原動力は家庭に有り、家族の成長を促すものとして親の取り組みが懸案されます。異性としての特性を踏まえた男女の結びつき、つまり結婚が重要視されます。共に親業を過ごせる人との巡りあいこそ自分たちと子々孫々への幸せに連なるものではないでしょうか。

## 男女共同参画に関する作文コンクール表彰式を行いました

12月6日(金)に、安中市と安中市男女共同参画推進委員会主催による男女共同参画に関する作文コンクールの表彰式が行われました。この作文コンクールには、高校生・一般の部、中学生の部、合わせて53点の応募があり、男女共同参画に対するさまざまな思いが寄せられました。審査の結果10作品が入選し、受賞者の皆さんに賞状と副賞が贈られました。

リレー・エッセイでは、引き続き入選された皆さんの作文を順次掲載していきます。

※高校生・一般の部の入選者は、平成25年11月1日号で紹介しています。



### ■中学生の部の入選者

最優秀賞	高林花奈 (安中二中 2年)
優秀賞	栗原夏海 (安中一中 3年)
	上原綾音 (安中一中 3年)
入賞	稲葉瑠海 (安中一中 3年)
	関根一馬 (安中一中 3年)
	落合翔也 (安中一中 1年)

このページに  
関る問合せ 企画課女性政策係 (☎内線1021)